

宗像地区は、福岡県北部に位置し、北東には四塚の峰が連なり、西は玄界灘に面し、白砂青松の地は玄海国定公園の一角をなしており、古墳や住居跡が点在し、玄海の海を中心に活躍した「宗像海人族」によって、さまざまな大陸文化がもたらされ、宗像大社、鎮国寺、宮地嶽神社をはじめとする国宝や重要文化財にも指定された寺社、仏閣等も点在し、「古事記」や「万葉集」にも地名がみられるなど、古くから栄えたことを物語っています。

また、温暖無霜な気候を利用して柑橘類や園芸品の栽培が行われている一方、県内屈指の水揚げを誇る鐘崎港をはじめ、神湊、福岡、津屋崎、大島などの漁港を持ち、食糧供給としての役割も果たしている。しかし、静かな農漁村だった当地区も、福岡と北九州市から約30kmの中間に位置することから、昭和30年代後半から始まった大型団地の建設により急速に人口が増加し、住宅都市として発展を続けています。

福岡教育大学や日本赤十字九州国際看護大学などの教育施設や市の文化の拠点となる宗像ユリックスなどの文化施設も多く整備され、^{いにしえ}古のおもかげが残る中で、新しい教育と文化が芽生え、「福北大都市圏のオアシス都市」をビジョンに掲げ、研究学園都市構想を軸にしたまちづくりが進んでいます。



宗像市日の里から玄界灘を望む

管内の面積・人口および世帯数

(平成23年12月31日)

構成市	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
宗像市	119.65	96,269	39,153
福津市	52.71	56,411	22,501
合計	172.36	152,680	61,654

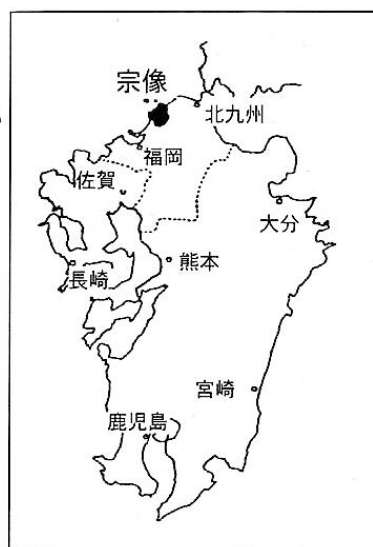
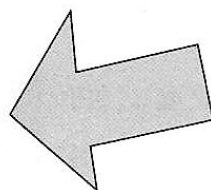
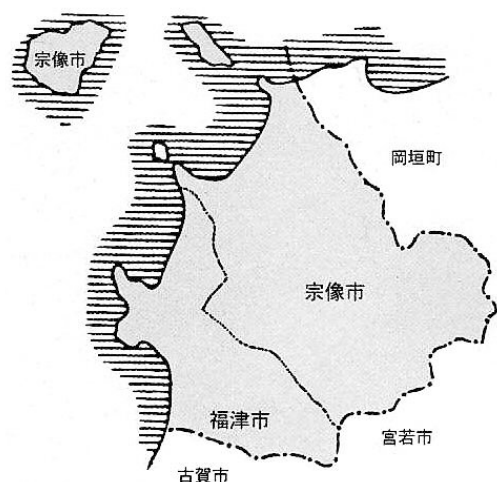
※市町村合併の状況

平成15年4月1日宗像市と旧玄海町が合併。「新 宗像市」となる。

平成17年1月24日旧福岡町と旧津屋崎町が合併。「福津市」となる。

平成17年3月28日旧大島村が宗像市へ編入合併。

地域紹介



宗像市 MUNAKATA



- 人口 / 96,269人
 - 世帯数 / 39,153世帯
 - 面積 / 119.65km²
- 「海・山・川に生まれ、教育・文化と歴史がいきる
コミュニティのまち」



海上神幸「みあれ祭」

◆ 宗像市のプロフィール ◆

福北大都市圏のほぼ真ん中に位置する宗像市。市の北西部は玄界灘に面し、白い砂浜の海岸線と樹齢200年以上の黒松並木が続くさつき松原は、玄海国定公園の中でも屈指の景観を誇っています。市内には、日本最古の神社である宗像大社や弘法大使が開基した鎮国寺、装飾古墳の桜京古墳など多くの歴史的遺跡が点在しており、玄界灘の孤島沖ノ島では、純金製指環、青銅鏡、ベルシャカットグラスなど約12万点もの国宝や重要文化財が発掘され、別名「海の正倉院」と呼ばれており、現在この沖ノ島を中心とした宗像地域の古墳群を、世界遺産へという運動が活発化しています。

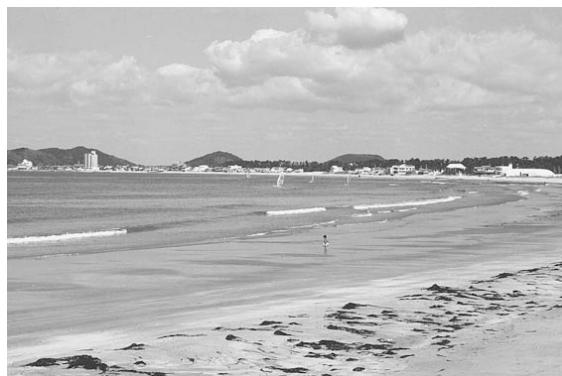
美しい自然や歴史的文化遺産に恵まれた良好な環境の中、市内には3つの大学が立地し、総合文化施設である宗像ユリックスやむなかたリサーチパークなど、学術都市としての特徴をもっています。

また、玄界灘を臨む癒しの休憩スポットとして「道の駅むなかた」が開業し、旬の魚などを求め県内外から多くの方が訪れています。

福 津 市 FUKUTU



- 人 口 / 56,411人
 - 世帯数 / 22,501世帯
 - 面 積 / 52.71 km²
- 「人を、明日を、誇るまち。
福津。」



福 間 海 岸

◆ 福津市のプロフィール ◆

福津市は、福岡県の北部で福岡市と北九州市の近隣に位置し、北東側は宗像市、南東側は宮若市、南側は古賀市に隣接しており、西側は玄界灘に面しています。また、東部を山、西部を海に囲まれ、特に海岸一帯と宮地嶽神社周辺の山林は、昭和31年に玄海国定公園に指定され、風光明媚な自然景観を形成しています。一方、交通網は、東西にJR鹿児島本線、国道3号が延び、海岸線と併行して国道495号が走っています。さらに、近くには九州自動車若宮インターチェンジ、古賀インターチェンジもあり、広域的な交通利便性にも富んでいます。このため、福津市は宮地嶽神社や津屋崎・福間海岸などを中心とした観光レクリエーションの場として、また、福岡・北九州両政令市への通勤・通学の利便性を背景とした住宅地域として、さらには、新鮮な食料品の生産供給地域としての広域的な役割をもっています。



新原・奴山古墳群

◆ 宗像・沖ノ島と関連遺産群～未来につなごう私たちの宝～ ◆

沖ノ島は、豊かな自然と共生し、「神宿る島」として人々の信仰や禁忌は現在まで継承され、日本固有の神祇信仰における崇拝形態の変遷を確認できる貴重な遺産です。

また、その関連遺産群である新原・奴山古墳群は5世紀から6世紀に造られた津屋崎古墳群の中でも最も古墳が密集している古墳群であり、東西約800mの台地に前方後円墳5基、方墳1基、円墳15基が残っています。

この「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、平成21年1月に国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産暫定リストに記載されました。

これを契機として、福岡県、宗像市、福津市は協同で、県民、経済団体、文化・教育団体、行政等で構成する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を設置しました。現在、本推進会議が中心となって、世界遺産登録に向けた官民一体の取り組みを推進しています。



沖 の 島